

北アフリカ・中東民主主義革命連帯！

マリキ政権は、イラク民主化要求デモへの弾圧を直ちにやめよ！

●抗議先:イラク大使館 〒108-0074 東京都港区高輪 2-16-11

TEL:03-5449-3231 FAX:03-5449-7719 Email:embassy@iraqi-japan.com

- ◆イラクマリキ政権は、2月25日バグダッド・タハリール広場に集まった市民の民主化を要求する「百万人デモ」に対して、実弾・ゴム弾・放水車・催涙ガスを使用する武力弾圧を行った。現地報道によれば多数の死者・負傷者が出ている。また、ティクリートの州庁舎デモに対しても「あらゆる武器を使った」弾圧が行われた。
- ◆2月16日には、タハリール広場に集まったIFC(イラク自由会議)の平和的なデモに対して、イラク政府部隊が襲撃しIFCサナテレビ本部に押し入り機材を没収。21日には、ティクリートでの進歩的青年学生連合リーダー、マハムード・ハリスさんを不当逮捕。そして23日、治安警察部隊は再びサナテレビ本部を襲撃。あらゆる資材を破壊し多数の文書を押収している。サナテレビが20日にタハリール広場で行われたデモ参加者の一人を警察部隊が殺害した映像を取材し報道した直後のことであった。また、25日にはIFC執行委員のジャッバル・アルアサディさんが不当逮捕された。
- ◆マリキ政権は、自由と平等、民主主義を求めるイラク民衆を不当に弾圧し、殺害し続けている。私たちは、これを断じて許すことはできない。直ちに不当な武力弾圧をやめること。不当逮捕した人々を解放すること。IFCをはじめ、イラク民衆に対して謝罪することを強く求める。



ロイター通信2月25日【バグダッド】

- ◆アラブ世界の民衆決起に刺激されたイラク民衆数千人が、汚職と公共サービスの劣悪さに抗議して全土で抗議に立ち上がった。少なくとも10人が治安部隊と衝突して死亡。政府庁舎への行進にたいして治安部隊が発砲し、多数の負傷者が出た。マリキ首相は、アルカイダが抗議行動を混乱させる恐れがあると警告したが、そのような武装集団の襲撃は報告されていない。
- ◆マリキは民衆の要求を無視はしないと約束した。マリキは声明の中で「我が国民の不満、要求は決して無駄にしない。私の責任の下でその実現を見届ける」と述べた。もっとも激しい衝突は北部のハウイジーアとモスル、南部の石油拠点のバスラで起こった。米軍らの侵略後8年間、復興は遅れ、イラク民衆は水、電気、食糧配給、仕事の不足に抗議の声を上げた。アラブ世界は独裁者の追放と自由な選挙を求めて抗議に立ち上がったが、イラク人はより生活に密着した要求と汚職に抗議するものである。「ここに来たのは、変革、社会状況の改革のためです。教育も医療制度もひどい、どんどん悪くなっている。」リナ・アリ(27)はフェイスブックの抗議グループの一員だ。「飲める水も電気もない。失業は増え続けている。これが若者をテロリズムに追いやりかねないのです。」
- ◆石油保有国であり大輸出国になるべきこの国が、戦争で破壊されたままの状態に、不満が渦巻いている。「石油の利益の分配はどこに行ったのだ？」【横断幕の見出し】
- ◆「民衆は飢えている。若者に就職の機会を、と政府に要求します。」ウム・サファ(52)はサドルシティーからタハリール広場まで歩いて抗議行動に参加した。
- ◆ロイター記者の証言では、モスルでは治安部隊が政府庁舎に迫る民衆に発砲した。3人が死亡し、15人が負傷した。警察筋は、モスルとハウイジーアで庁舎に火を放ち、2人が死亡し22人がケガをした、と発表した。スレイマニアの南方の街カイアルでは治安部隊が発砲し、1人が死亡、少なくとも10人が負傷した、と治安部隊および医療関係者が語った。北部の街チャムカマルデモで1人が死亡し5人が負傷した。【医療関係者による】
- ◆治安軍の発砲で1人が死亡し多数の負傷者が出たバスラでは、午前6時までの夜間外出禁止令が発令された。バスラ州知事のシャルタ・アブードは、民衆の要求におされ、辞任を表明した。
- ◆サマラとティクリートでは2人が死亡、22人が負傷。キルクーク、ファルージャ、スライマン・ペク、ナシリアカルディアでも少なくとも43人が負傷した。バグダッドのタハリール広場では15人が負傷し、車両の夜間外出禁止令が発令された。